

介護相談員の声

「自分で決める生き方」

介護保険制度が発足してから今年で丸10年がたちました。日本が世界に例を見ないスピードで超高齢社会に突入することから、この制度は走りながら考えると言う姿勢で始まりました。今までの社会福祉のありようを大きく変えることになり、そのトップバッターと言えるのが、高齢者の介護保険制度です。

介護保険は、国民健康保険などと同じように、自分の意思で利用するところが、それまでと違った大きな特徴です。利用したいときに、自分が申し込めばよいのです。ところが、私たちはこのようなことに慣れていない上に、高齢になったり、突然の病気などで判断力が弱り、考えたり決めたりできなくなることが多いのです。

今までたくさんの施設を訪問し、お話を伺ってきましたが、施設をご利用の多くの皆様は、施設でその人に合った介護を受けて、安心安全の中でおだやかに、楽しく暮らしておられます。しかし、ご自分が望んで決めて、入所しておられるかどうか、気になることもあります。

少子高齢化や晩婚化などにより、一人暮らしの方や子どもを持たない夫婦が増加するなど、家族のありようが大きく変わってきている今日では、居宅の介護サービスを利用しても、家族に自宅で介護されることが望めないことも多く、施設利用はこれからはますます必要とされることでしょう。

先ほど申し上げましたが、自分の意思で利用することができる介護保険の特徴を今一度考えたいと思います。自分の受ける介護について決めたり選んだりするのは、ご本人の心身の状態とご家族の思いやご事情もあり、それぞれが悩んだ末の選択だと思います。しかし、ご本人の本当の思いはどうだったのでしょうか？

ご本人の思いを大事にし、かなえていくためには、判断力のあるうちに、自分の老後のイメージを考え、自分らしさを大事にし、介護保険を利用しながら、家族や友人にどこまで協力をお願いし、いつまで自分で暮らせるかなどを考えて、メモしておくことも必要なのかなと思います。

私は、病気になったり、障害があっても、失ったことを数えるより、残された力を大事に考えたいです。具体的には、リハビリを頑張り、自分のことを自分で決めて、自律した人生のフィナーレを過ごしたいものです。ともすれば、介護保険ができたので、すべてお任せできるという考えが出てきてしまったような気もしますが、介護サービスだけでは、自分らしく暮らせません。家族や友人やご近所とよい関係を持ち、助け合っていきたいと思います。そして介護サービスや医療や施設の利用についても、自分の考え方を家族や友人にわかるようにしておき、判断力が弱っても、制度の利用に役立ててほしいと願います。そして最後まで自分らしく生ききたいと思います。

元気なうちは、ボランティアとして支える側に回り、「自分だったらどう思うか」といった視点で相談活動を続けたいと考えています。

京都市介護相談員 佐竹 紀美子